

名前（ ） 日づけ（ / ） できた数（ /28）

使い方 本文を二回読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この場面の山は「古文特有の語の意味」と「源氏が目を離せない理由」です。答え合わせのあとに、現代語訳で話の流れを確認しましょう。

あらすじ＝病の治療のため北山を訪れた光源氏が、夕暮れの霞にまぎれて小柴垣の内をのぞき見る。中では四十過ぎの尼君が持仏を拝んでいる。そこへ十歳ほどの少女が「雀の子を犬君が逃がした」と泣きべそをかいて走って来る。尼君は、自分の命が長くないのに雀のことばかり気にする少女の幼さをたしなめる。源氏はその少女の成長した姿を見たいと思い、目がとまる。じつはその少女が、源氏の恋い慕う藤壺によく似ていたからであった。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

日もいと長きに、^①つれづれなれば、夕暮れのいたう霞（かす）みたるに^②まぎれて、かの小柴垣（こしばがき）のもとに立ち出（い）で給（たま）ふ。人々は帰し給ひて、惟光（これみつ）の朝臣（あそん）とのぞき給へば、ただこの西面（にし）おもてにしも、持仏（じぶつ）据（す）ゑ奉（たてまつ）りて行（おこな）ふ尼（あま）なりけり。

四十余ばかりにて、いと白う^③あてに瘦（や）せたれど、つらつきふくらかに、まみのほど、髪（かみ）の^④うつくしげにそがれたる末（すゑ）も、なかなか長きよりもこよなう^⑤今めかしきものかなと、^⑥あはれに見給ふ。

清（きよ）げなる大人（おとな）二人ばかり、さては童（わらは）べぞ出で入り遊ぶ。中に、十ばかりにやあらむと見え、白き衣（きぬ）、山吹（やまぶき）などの、なえたる着て、走り来たる女子（めのこ）、あまた見えつる子どもに似るべうもあらず、いみじく^⑦生ひ先見えてうつくしげなる容貌（かたち）なり。髪は扇（あふぎ）を広げたるやうにゆらゆらとして、顔はいと赤くすりなして立てり。

「何（なん）ごとぞや。童（わらわ）と腹立ち給へるか」とて、尼君（あまぎみ）の見上げたるに、すこしおぼえたるどころあれば、^⑧子なめりと見給ふ。^⑨雀の子を犬君（いぬぎ）が逃がしつる、伏籠（ふせご）のうちに^⑩籠めたりつるものを」とて、いと口惜（くちを）しと思へり。

尼君、^⑪いで、あな幼や。^⑫言ふかひなうものし給ふかな。おのがかく今日明日におぼゆる命をば、何とも思したらで、雀慕ひ給ふほどよ。罪得ることぞと、常に聞こゆるを、心憂（こころう）く」とて、「こちや」と言へば、ついゐたり。

^⑬ねびゆかむさまゆかしき人かなと、目とまり給ふ。さるは、^⑭限りなう心を尽くしきこゆる人に、^⑮いとよう似たてまつれるが、まもらるるなりけり、と思ふにも涙ぞ落つる。

語注 いたう＝たいそう。小柴垣＝丈の低い、柴で編んだ垣根。惟光の朝臣＝光源氏の乳母子（めのとこ）で腹心の家来。西面＝西向きの部屋。持仏＝身近に置いて日ごろ拝む仏像。行ふ＝仏道の勤めをする。つらつき＝顔だち。まみ＝目もと。そぐ＝（髪）の先を切りそろえる。なかなか＝かえって。こよなう＝この上なく。清けなり＝こざつぱりとして美しい。大人＝おとなの女房。童＝子ども。召し使い。なえたる＝着なれてやわらかくなった。女子＝女の子。容貌＝顔だち。おぼゆる＝似る。犬君＝少女に仕える童女の名。伏籠＝ふせて上に衣をかけ、香をたきしめるためのかご。ここには雀の子を入れていた。口惜し＝残念だ。いで＝いやもう・まあ（感動詞）。おのが＝自分の。今日明日におぼゆる命＝今日か明日かと思われる、先の短い命。罪得＝仏罰を受ける。ついゐる＝ひざについてすわる。さるは＝というの。まもる＝じつと見つめる。※この少女が、のちの紫の上である。

若紫（垣間見）

A 語句の意味と読み（1～7）

- (1) ① 「つれづれなれば」の「つれづれなり」の意味を書け。
- (2) ③ 「あてに」の終止形と、ここでの意味を書け。
- (3) ④ 「うつくしげに」のもとになる形容詞「うつくし」の意味を書け。
- (4) ⑤ 「今めかしき」の終止形と意味を書け。
- (5) ⑥ 「あはれに」の、ここでの意味を書け。
- (6) ⑦ 「生ひ先見えて」の「生ひ先」の意味を書け。
- (7) ⑪ 「いで、あな幼や」の「あなゝや」はどのような気持ちを表す言い方か。また、「幼し」のここでの意味を書け。

B 文法（8～13）

- (8) ② 「まぎれて」の「まぎれ」について、動詞「紛る」の活用の種類と活用形を書け。
- (9) ⑧ 「子なめり」の「なめり」は、もとどのような形か。変化の順を追って説明せよ。
- (10) ⑨ 「雀の子を犬君（いぬき）が逃がしつる」の「つる」を文法的に説明せよ（終止形と活用形も示すこと）。
- (11) ⑩ 「籠めたりつるものを」の「たり」の意味と活用形を書け。
- (12) ⑩ 「籠めたりつるものを」の「ものを」の意味とはたらきを書け。
- (13) ⑮ の「まもらるるなりけり」の「るる」は、自発・可能・受身・尊敬のどれか。終止形もあわせて書け。

C 主語・指す内容・敬意の方向 (14～18)

(14) ⑧ 「子なめり」とあるが、誰が、誰を、誰の子だと思ったのか。

(15) ⑨ 「雀の子を犬君（いぬき）が逃がしつる」は、誰の言葉か。

(16) ⑪ 「いで、あな幼や」は、誰が誰に向けて言った言葉か。

(17) ⑭ 「限りなう心を尽くしきこゆる人」とは誰を指すか。

(18) ⑮ の「似たてまつれる」の「たてまつれ」について、敬語の種類と、誰から誰への敬意を書け。

D 口語訳 (19～22)

(19) ⑨ 「雀の子を犬君（いぬき）が逃がしつる」を口語訳せよ。

(20) ⑫ 「言ふかひなうものし給ふかな」を口語訳せよ。

(21) ⑬ 「ねびゆかむさまゆかしき人かな」を口語訳せよ。

(22) ⑮ 「いとよう似たてまつれるが、まもらるるなりけり」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (23～25)

(23) ⑨・⑩の言い方と、直前の「顔はいと赤くすりなして立てり」から、少女がどのような子どもとして描かれているか説明せよ。

(24) ⑪・⑫のように尼君が少女をたしなめたのはなぜか。あとに続く尼君の言葉をふまえて六十字程度で書け。

(25) ⑭・⑮をふまえて、源氏が少女に目をとめ、さらに「涙ぞ落つる」とまでなったのはなぜか。源氏の心の中を説明せよ。

F 文学史 (26～28)

(26) 『源氏物語』の作者名と、成立した時代を書け。

(27) 『源氏物語』は全部で何帖からなるか。また、「若紫」は巻の初めから数えて何番目の巻か。

(28) 『源氏物語』のような作り物語に対して、和歌を中心に短い話を連ねた物語を何というか。また、その代表作を一つ挙げよ。

【テスト直前チェック】この三つ ①「うつくし」は「かわいい」。今の「美しい」ではない。「あてなり＝上品だ」「今めかし＝現代風だ」「ねびゆく＝成長していく」「ゆかし＝見たい」もセットで覚える。 ②「子なめり」は「なるめり」→「なんめり」→「なめり」。断定「なり」の連体形＋推定「めり」で、撥音の「ん」を書き表さない形。 ③源氏が目を離せない理由は「藤壺によく似ているから」。記述問題の答えは、ほぼここに集まります。